

所属機関外利用可能サーバ（機関外サーバ）の運用開始について

令和元年 7 月 22 日

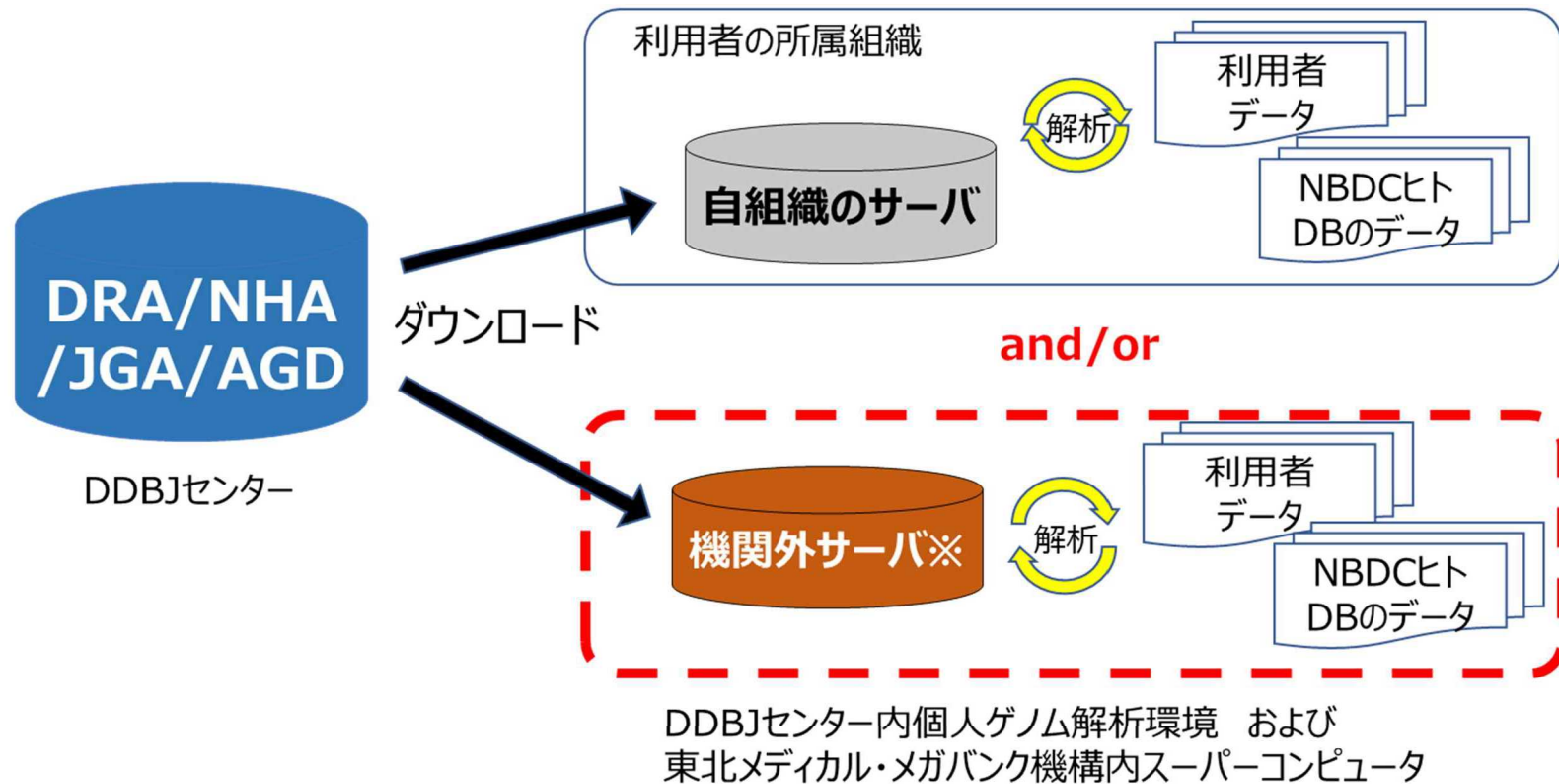
国立研究開発法人科学技術振興機構

バイオサイエンスデータベースセンター

NBDC ヒトデータベースに収集・蓄積された多量かつ多様なデータの利活用を目指すにあたり、データ解析・保管可能なサーバや計算機環境を拡大していく仕組みが必要である。そこで、第一段階として、これまでデータ利用者が所属する機関が管理するサーバでのみ、データの解析や保管を可能にしていたが、それに加え、利用者が所属する機関以外の機関が管理するサーバ（機関外サーバ）でのデータ利用を可能にすることとした。個人情報等を適切に保護するという観点から、『機関外サーバ』は、ヒト試料由来データや臨床情報等の機微な個人情報を解析する環境が整っており、かつ NBDC ヒトデータ取り扱いセキュリティガイドラインおよび NBDC ヒトデータグループ共有データ取り扱いセキュリティガイドラインの遵守を含む、運用に関する覚書を JST/NBDC と締結した機関が所有する計算機環境内にあり、ハイレベル【Type II】セキュリティにおいて必要な対策が実施されているサーバである。

利用可能な機関外サーバとして、国立遺伝学研究所の遺伝研スーパーコンピュータ個人ゲノム解析環境が平成 30 年 8 月より利用可能となり、また、東北メディカル・メガバンク機構のスーパーコンピュータが平成 31 年 4 月より利用可能となった。

所属機関外利用可能サーバ（機関外サーバ）



従来は所属組織内のサーバへのみダウンロード可能であったが、所属組織以外の上記2箇所の解析環境へのダウンロードも可能とした。